

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
鉄道史		鉄道網の形成と歴史的系譜		大野 絢也	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	近現代史、国際関係史、政策史、産業史、地域社会史			
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける					
事前に受講するとよい科目	「交通概論」「鉄道基礎」「鉄道工学」「鉄道数学」「交通英語入門」「鉄道システム論」					
講義の目的	鉄道に関する過去の史料を用いながら、様々な因果関係や系譜を紐解いていく歴史学的手法で、鉄道の歴史を紹介する。普段乗り慣れている鉄道は、いつどのような経緯で建設され、運営されてきたのか、人文科学全般の知見に基づいて学ぶことを目的とする。					
到達目標	鉄道の歴史を理解することにより、近代以降の地域社会と鉄道の関係性や、鉄道を中心とした交通体系が抱える様々な課題について、自らの視点に基づいた意見を持つことができる。					
講義内容	鉄道を中心とした交通体系の発展が近代社会の形成にどのような影響を与えたのかについて、鉄道に関する歴史を工学や技術といった面だけでなく、政治・経済・社会など多方面から紹介する。鉄道の発明以降の歴史を扱うため、対象時期は近現代(19～20世紀)が中心となる。対象地域は国内外を問わず、様々な事例をとりあげる。特別な予備知識は必要としない。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	導入	グループワークでの討論とキーワード抽出			
	第2講	草創期の鉄道	イギリスでの発祥とヨーロッパ世界での鉄道網拡大			
	第3講	世界の一体化と鉄道	“80日間世界一周”の実現			
	第4講	地域社会と鉄道	近代アジアの鉄道をめぐる“葛藤”			
	第5講	国家建設と鉄道	100年前にできていた“一带一路”計画			
	第6講	鉄道忌避伝説	近代日本の鉄道に対する地域社会の抵抗と受容			
	第7講	“我田引鉄”	鉄道をめぐる苛烈な誘致合戦			
	第8講	聖地を目指す鉄道	観光開発鉄道や神社仏閣参詣鉄道の乱立			
	第9講	帝国拡大と鉄道	アジア各地と繋がった地域社会			
	第10講	戦争と鉄道	分断された国際鉄道網			
	第11講	高度経済成長と鉄道	ニュータウンと満員電車の社会史			
	第12講	未成鉄道の現状	繋がった鉄路と繋がらなかった鉄路			
	第13講	鉄道が抱える課題	モータリゼーションと合理化の潮流			
	第14講	鉄道の未来	鉄道の技術革新と高速化			
第15講	総括とフィードバック	講義内容を振り返りながら討論				
指導方法	講義はレジュメと映像資料を主に用い、鉄道と社会の関係性について紹介する。教員が実際に撮影した映像や写真、現地で収集した資料も用いる。毎回、レジュメや映像資料を踏まえたリアクションペーパー記入などの課題を課す予定である。					
事前学習	シラバスを参考に、各回の内容について書籍やウェブサイトなどで概要を調べておくことを推奨する。そのほか、新聞やニュースを見る習慣をつくり、鉄道に関連する報道を自らのノートにまとめ、興味関心をひろげると良い。1時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習	講義内で紹介した書籍や配布資料を見直すことや、自ら関連のある映像資料を探して視聴すること。1時間程度の学習時間が目安である。また、機会があれば授業内で紹介した鉄道をさらに知るため、実際に現地へ行き沿線地域の状況を見学することで、さらに理解を深めることができる。					
成績評価方法	平常点(授業内課題)：50%、本試験(筆記試験)：50%として、総合的に評価する。					
テキスト	特に1冊を指定する事はしない。必要な資料については、各回で随時配布する。					
参考書籍	井上勇一『鉄道ゲージが変えた現代史：列車は国家権力を乗せて走る』中央公論社、1990年。デイヴィス・クラレンス、ウィルバーン・ケネス Jr 編『鐵路 17 万マイルの興亡：鉄道からみた帝国主義』日本経済評論社、1996年。青木栄一『鉄道忌避伝説の謎：汽車が来た町、来なかった町』吉川弘文館、2006年。中村尚史『海をわたる機関車：近代日本の鉄道発展とグローバル化』吉川弘文館、2016年。原武史『歴史のダイアグラム』朝日新聞出版、2021年。その他、講義時に適宜紹介します。					
特記事項						